

## A. 事業内容

|         |            |            |      |
|---------|------------|------------|------|
| 【事業名】   | 志貴っ子田んぼの学校 |            |      |
| 【事業分野】  | 子どもの健全育成   | 【協働の形態】    | 事業共催 |
| 【行政担当課】 | 農務課        | 【協働のパートナー】 |      |

### 【事業概要】

「志貴っ子田んぼの学校」は、安城市立志貴小学校の総合学習の一つとして、児童が年間を通じた農業体験で、農業・食糧・労働・環境・生物などを総合的に学ぶことを目的とし、平成20年度よりスタートしました。

この事業は、当初「橋目みどりの会」により実施されていましたが、平成24年6月に志貴小学校が事務局を務め、学区内の町内会及び住民有志により結成された「志貴っ子田んぼの会」が発足し、引き続き事業をサポートしています。

主な事業として、小学校近くの田んぼ（約3畝）を借り、「手作業・不耕起・自然農法・無農薬・無化学肥料」の原則で、うるち米（あいちのかおり）及びもち米（十五夜）の田植え（6月）から収穫（10月）までを行い、そこでとれたお米を使って餅つき（12月）や七草がゆ（1月）といった年間を通して様々なイベントを実施しています。

この事業は5年生が中心ですが、その他の学年の児童や志貴保育園の園児にも分担が分かれており、学年によって楽しみが続くよう工夫がなされています。

また他にも、農閑期は田んぼに水を張り、「冬水田んぼ」として生き物が生息しやすい状況にし、生き物観察や水質調査なども行っています。

### 【背景・きっかけ】※なぜ協働を行ったか？

平成20年4月に志貴小学校に赴任された前校長が、小学校周辺的环境に着目し、総合学習の一環として、農業の体験学習ができないかと当時町内会の役員を務めていた「橋目みどりの会」代表（現「志貴っ子田んぼの会」代表）に相談したのが始まりです。

それに応える形で代表が地元を中心に協力を呼びかけ、同じ学区内で合鴨農法や無農薬栽培を実践する農家の指導を仰ぎ、田んぼを借りて始まったのが「志貴っ子 田んぼの学校」です。

### 【役割分担】※どのような協働を行ったか？

#### ・志貴小学校

事業の企画を行い、実施に向けて「橋目みどりの会」を始め、町内会・父兄・報道機関などとの連絡・調整を行う。「橋目みどりの会」が解散することとなった際は、現校長が事業継続に向け調整に奔走し、平成24年6月に「志貴っ子田んぼの会」を結成し、志貴小学校内に事務局を置いて経理・事務を統括する。

#### ・志貴っ子田んぼの会

「志貴っ子田んぼの学校」の運営を担い、田んぼの確保と管理・町内会や地元住民との調整・協働する他の市民活動団体への声掛けなどを行った。また、農林水産省や愛知県より補助金を受けており、条件にもかなったことから一部費用負担も行った。

・地元町内会及び住民

地区内の学校であり、自らの母校もしくは家族が通う住民も多いことから、事業に協力。田んぼの提供や稲作や餅つきなどの技術指導、ボランティア活動で人手を提供するなどに様々な支援を行っている。

また、「田んぼの学校」発足に当たっては、事業継続のため、費用負担にも応じている。

・市民活動団体

「志貴っ子田んぼの会」代表の呼びかけに応じ、自らが得意とする分野で事業を支援する。（安城野草会、グリーンそう、茶屋フレンズなど）

## 【効果・課題】※協働した結果どうなったか？

### 【効果】

- ①様々な団体や人物と連携したことで、児童に多種多様な体験教育を提供できた。
- ②農家では無い住民も事業の手伝いに参加するようになり、協力体制ができた。
- ③前校長が積極的にメディア（新聞・TVなど）に働きかけ、事業を紹介してもらったことで、住民の間でも張り合いが出た（評価は嬉しい）。

### 【課題】

- ①学校で予算を確保できないため、費用面も事業運営も地元に依存する形になっている点。
- ②事業継続に当たって、校長のリーダーシップもしくは意欲に拠る部分が大きい点。

## B. 団体プロフィール

|          |           |            |            |       |     |
|----------|-----------|------------|------------|-------|-----|
| 【団体名】    | 志貴っ子田んぼの会 |            |            |       |     |
| 【法人格の有無】 | 無         | 【設立時期】     | 平成24年5月14日 | 【会員数】 | 27人 |
| 【活動地域】   | 志貴小学校区    | 【ホームページなど】 | 無          |       |     |

### 【目的】

- ・自然の恵みに感謝し、日本古来の食文化について関心を持つ児童・園児を育てる。
- ・素晴らしい「ふるさと志貴」を想い、地域に感謝できる児童・園児を育てる。
- ・環境教育の一環として自然農法を推奨し、田んぼに生息する生き物観察等を通じて自然との共存を大切にする児童・園児を育てる。
- ・児童と共に汗を流し、会話や作業など相互のふれあいを密にしながら、こころ豊かな児童・園児を育てる。

### 【主な事業】

「平成24年度の活動紹介」

- 5月 田植え・蛍の幼虫放流
- 7月 田んぼの生き物観察・雑草取り
- 10月 稲刈り用の菅縄づくり、田んぼの稲刈り
- 11月 足ふみで脱穀作業
- 12月 稲わらで注連縄づくり、餅つき大会
- 1月 七草粥の会
- 2月 冬水田んぼに米ぬか散布



## C. 協働ココが大事

### 【協働のポイント】

最大のポイントは、やはり2人の志貴小学校校長の実行力にあると思われます。

小学校の総合学習の一環としての「田んぼの学校」は、関係者すべてがその事業の効果と必要性を認めることが出来、地元の多くの住民が小学校に何らかの関わりを持っていることから理解を得られやすく、なおかつトップの校長自らが旗振り役と調整役を務め、「協働」を率先して実行していることが事業継続の大きなカギとなっています。

代表によりますと、「新たに事業を立ち上げるのは大変」にも関わらず、この田んぼ事業を実行に移すことが出来たのは、前校長のパーソナリティによるところが大きかったとのことです。志貴小学校の周辺環境にほれ込み、着任1年目から町内会に働きかけ、2年目からの実施にこぎつけています。隣接する志貴保育園をも巻き込み、メディア（新聞・TVなど）を活用してPRすることで、まさに「地域を変えた」事業となりました。

また、代表も「橋目みどりの会」のみではなく、「安城野草会」をはじめ、様々な団体や技術・知識を持つ人に声をかけ事業への協力を依頼されたことで、単に稲作を行うだけではなく、七草粥のために七草を採る、餅つきを行う、冬水田んぼでの生き物観察など、児童に多種多様な体験を提供することが出来ています。

後任の現校長もこの事業を引き継いだだけではなく、平成23年度いっぱい「橋目みどりの会」が解散することとなった際、校長自らが学区内の各町内会に事業への協力を依頼し、事務局を志貴小学校内に置く「志貴っ子田んぼの会」を発足させたことは特筆すべき点です。

校長は、あんねっとの取材の際に『協働』とは一体どういう意味なのか？とおっしゃっていましたが、まさに「協働」が実践されている好例と言えます。

### 【団体からの一言】

農業体験は、教育の素材として素晴らしく、環境問題・生き物観察・食育といった総合学習になる。今後も地域の方々の協力を得て、地域の特色を生かして続けていきたい。（志貴小学校校長）

子どもたちの勉強になり、地域住民も学校の行事に参加することで学校が身近になった。これからも小学校と協力して続けていきたい。（「志貴っ子田んぼの会」代表）

### 【あんねっからの一言】(300字程度)

この事業を取り上げた理由は、小学校・町内会・市民活動団体・地域住民が、それぞれ出来ること得意なことを持ち寄って、まさにサラダの様に協働事業を作り上げている点です。人々や各団体のネットワークが協働の輪を広げ、「志貴っ子田んぼの学校」での多種多様な体験メニューの提供に繋がっています。

キーパーソンが熱意を持って呼びかけていること、メディアを活用して評価を得る（褒めてもらう）ことで、事業に参加している人たちのモチベーションを高めたことも事業継続への重要な工夫です。

是非、他校・他地域にも広がってほしい協働事例です。